

# 中国語の“動相”における否定表現について —否定辞“不”と“没”の文法的使い分けと意味的相違を中心に—

孫 犁 冰

## 要 旨

否定是一种普遍的思维方式,它反映的逻辑形式是人类所共有的。本论以现代汉语中的最重要、最常见的表达否定的词汇“不”和“没”为中心,侧重于研究分析其各自的表达否定的形态和语法结构,力图通过研究否定词而能够很好的解释普遍的思维活动。本文以朱继征(2000)所定义的动相和静相为基础,通过例句分析进一步证实了其“动相与静相对‘不’和‘没’的使用产生制约”之观点,并将其“动相的否定可以用‘没’,不可以用‘不’;静相的否定可以用‘不’,不可以用‘没’。”之主张经验证而扩展成为“动相中,肯定句中带‘着’、‘了’、‘过’等的否定可以用‘没’,不可以用‘不’;静相中除特别‘有’以外的否定可以用‘不’,不可以用‘没’。”

キーワード……不/没 否定 動相 静相

## 1.はじめに

“不”と“没”は現代中国語の中の最も重要な否定辞として数多くの先行研究が行われてきた。そのうちの大部分は伝統的な詞性分析、語意描写および語意特徴分析に焦点を当てたものであり、理論的な総括性や解釈力が不足していた。本論はこれらの問題について考察・分析し、特に動相の前の“不”と“没”の文法的な使い分けを制約する要因と、両者の意味的相違を明らかにしたい。

## 2.先行研究

### 2.1.呂叔湘

呂叔湘(1980)は時間という概念を否定辞研究と結びつけて、“没有(没)”と“不”を次のように比較した。

①“‘没有’用于客观叙述,限于指过去和现在,不能指将来。‘不’用于主观意愿,可指过去、现在和将来。”(‘没有’は客観的叙述に用いる。過去あるいは現在のみを指し、未来を指すことはできない。‘不’は主観的意思に関して用い、過去、現在、未来を指すことができる。)◇

以前他没有去过 (これまで彼は行ったことがない) ◇前天他没有去 (一昨日彼は行かなかった)  
◇今天他没有来<客观叙述> (今日彼は来なかった: 客観的叙述) ◇前天请他他不来, 现在不请  
他他更不来了<主观愿望> (一昨日彼を呼んだのに彼は来なかったんだから、今彼を呼ばなければ  
彼はなおさら来ないだろう: 主観的意志)

② “不”可以用在所有的助动词前, ‘没有、没’只限于‘能、能够、要、肯、敢’等少数几个。下例都不能用‘没有、没’。(‘不’はすべての助動詞の前に用いられる。‘没有、没’は‘能、能够、要、肯、敢’などいくつかの助動詞に限る。以下の各例はみな‘没有、没’を用いることはできない。) ◇不会讲 (話がうまくない) ◇不该去 (行くべきではない) ◇不应该问他 (彼に聞くべきではない) ◇不愿意走 (出かけたくない) (p.341.)

呂叔湘(1985)によると、“不”和“没”是两个主要的否定词,但是词性不同“不”是副词,“没”是动词和助动词。‘没’有一个变体是‘没有’,这两个形式应用的情况有同有异:在句子或小句的末了,用‘没有’,但如句末有语助词,也可以用‘没’;在句子或小句的中间可以用‘没’,也可以用‘没有’,说话里边用‘没’较多,文章里面用‘没有’较多。”(“不”と“没”は二つの重要な否定辞であるが、語の特徴が異なる。“不”は副詞であり、“没”は動詞と助動詞である。“没”には変体の“没有”があるが、両者が応用上の共通点もあれば相違点もある。例えば文末に語気助詞があった場合は、“没”を用いても良い。文または短文の中では両方を用いることができる。会話文には“没”が多く使われるが、文章のなかには“没有”が比較的によく使われる。) (pp.241-250.)

## 2.2.石毓智(1992)

呂叔湘(1985)に対して、石毓智(1992)は否定辞“没”の品詞判断の相違を異なる研究方法に帰した。“没”を動詞または副詞とみなすのは伝統語法の枠組み(“传统语法框架”)であり、それを動詞とみなすのは構造主義理論の枠組み(“结构主义理论框架”)である。“不”と“没”は完全に自然言語中のロジック規則の制約を受けている。慣用法に見える問題は、実際に深いロジック背景を有している。さらに、石毓智は物事または現象の変化における量変を「離散量」と「連続量」と抽象化した。「離散量」とは、明確な境界のある量であり、一方、「連続量」とは境界がはっきりしない量であると定義した上、「離散量」と「連続量」を区分する手段を見出した。さらに、従来の“不”と“没”に関する研究はすべての言語事実をカバーできないと指摘し、“不”は連続量語句の否定標記であり、“没”は離散量語句の否定標記であると強調した。(p23-46.)

## 2.3.李瑛(1992)

一般的には“不”は動詞、形容詞、介詞を否定できる、名詞を否定できないと認識されている。しかし、李瑛(1992)によると、“不”并不是能否定所有的动词、形容词、介词。凡语义中含有主观因素的词能够被‘不’直接否定,那些不受主观因素影响的客观性行为、事物的语词不能

用‘不’否定、‘不’本身是一个表示主观否定或主动否定的副词。”（“不”はすべての動詞、形容詞、介詞を否定できるわけではない。語意に主観的要素が含まれている語の場合は、“不”を用いて直接否定できる。主観的要素の影響を受けていない客観的行為や物事の語の場合は、“不”を用いて否定できない。つまり、“不”自身は主観的否定または能動的否定を表す副詞である。）

動詞が表す行為と動作主との間の関係に基づき、李瑛は動詞を三つに分類した。

①“吃”（食べる）、“喝”（飲む）、“工作”（働く）、“学习”（勉強する）、“喜欢”（好む）、“想念”（懐かしむ）などの動詞の大部分は動作主が動作・行為を自ら把握できる能動性動詞である。

②“诞生”（誕生する）、“死亡”（死亡する）、“失踪”（失踪する）、“受伤”（怪我する）、“生活”（生活する）、“碰见”（出会う）、“接到”（受け取る）、“变成”（変わる）、“听说”（耳にしている）、“下降”（下降する）、“有”（ある）、“得救”（助かる）、“卷入”（巻き込まれる）、“覆没”（覆滅する）、“流落”（放浪する）、“落成”（落成する）、“座落”（位置する）、“成名”（名を成す）、“引起”（引き起こす）、“取得”（取得する）、“转入”（転ずる）、“变为”（変わる）、“发现”（発見する）、“展现”（現れる）、“形成”（形成する）、“误信”（誤信する）、“灭亡”（滅亡する）などは客観性動詞である。客観性動詞が陳述している内容は被陳述者によって自ら行うことができないものである。

③“值得”（値打ちがある）、“好像”（似ている）、“类似”（類似する）、“大于”（より大きい）、“小于”（より小さい）、“等于”（に等しい）、“包括”（含む）、“适应”（適応する）、“存在”（存在する）、“懂得”（理解する）などの数少ない動詞は発話者がある物事の性質や状況についての評価・認識を表す評述性動詞である。

上記、①能動性動詞は“干什么？”（何をする？）“怎么样？”（いかがですか？）に答えられる。②客観性動詞と③評述性動詞は“怎么样？”にしか答えられない。①能動性動詞の否定は“不”と“没”両方用いられる。③評述性動詞の否定は一般的に“不”のみ用いられる。②客観性動詞は“不”によって直接否定できない（仮設関係を表すものを除く）、“没”のみ用いることができる。(pp.61-70.)

## 2.4. 白荃(2000)

一方、白荃(2000)は李瑛(1992)の論点を客観的、正確に“不”の最も重要な、最もよく見られる否定意義をまとめたと評価したと同時に、「このほかに“不”には意味がない」というのは“不”の否定意味を強調しすぎたのであると指摘した。白荃(2000)による“不”と“没”の意味と文法的使い分けについて、以下の通りである。

“‘不’主要是从主观的角度否定动作发出者(主语)发出某个动作行为的主观意愿或说话者的主观评价,另外还可以否定自然界的某些运动本身以及广义上的性质状态;经常用于现在和将来,也可以用于过去。‘没’是从客观陈述的角度否定某种客观事实,所谓客观事实包括动作的发生、进行、完成或过去的经历,经常用于过去和现在,在一定的条件下(如在假设句和表示估计的句子中)也可

以用于将来。”(“不”は主に主観的角度から動作の発動者(主語)がある動作行為を行う主観的意志あるいは話者の主観的評価を否定し、自然界の動き自身および広義的な性質や状態を否定でき、よく現在と将来に用いられ、過去にも用いることができる。“没”は客観陳述の角度からある客観事実を否定する。所謂「客観事実」とは、動作の発生、進行、完成あるいは過去の経験をさす。よく過去と現在に用いられ、一定の条件(例えば仮定文と予測を表す文)の下で、将来に用いることもできる。) (pp.21-25.)

## 2.5.朱繼征(2000)

朱繼征(2000)は動相<sup>1)</sup>の諸形式を体系的に再整理、再定義をしたところ、“動相”と“静相”が“不”と“没”の使用を制約していると指摘した。

「“動相”の定義とは、動詞の表す時間的動きの全過程のどの局面に焦点を当てて、その時間的動きを捉え、表現するのかを表し分ける形式である。言い換えれば、つまり時間軸に沿って展開されている動作・作用の進歩具合と状態を示し、その時間的動きを捉えて表現する文法的カテゴリーである。」(p.20.)

「“静相”の定義とは、動詞の表す時間的動きの過程と関係なく、動詞の表す主体の意思、話者の主観的判断あるいは事象の属性、経常的現象などという静的側面を捉え、表そうとする動詞表現一般を表す。裸形動詞(ゼロ形式)を用いて、①未然的意味、②恒常の意味、③経常の意味、を表す。」(p.26.)

両者の相違点について、「①形態論の立場から言えば、“動相”表現は必ず“動相”諸形式のいずれかが用いられる。一方、“静相”表現は必ず“動相”諸形式のいずれかが用いられず、裸形動詞で表現される。②意味論の立場から言えば、“動相”は動詞を表す「動き」の全過程におけるある局面に焦点を当てて、その「動き」を捉えて、表現するものである。一方、“静相”は動詞の「動き」の過程とは関係なく、動詞を表す静的側面を捉えて表現するものである。③否定表現との関係から言えば、中国語の“動相”“静相”は否定詞“不”“没”の使い分けを制約する要因である。言い換えれば、“動相”を否定するには、“没”を用いることができるが、“不”を用いることができない。それに対して、“静相”を否定するには、“不”を用いることができるが、“没”を用いることができない。」(p.28.)

## 2.6.戴耀晶(2000)

中国語の否定文と肯定文の非平行性について、戴耀晶は以下のようにまとめた。

① “否定可分为质的否定和量的否定。质的否定是否认事物的存在或事件的发生,语义含义是‘无’。量的否定是否认事物或事件在数量上的规定性,语义含义是‘少于!’”(否定は質的否定と量的否定に分かれる。質的否定とは、物事存在または事件の発生に対する否認であり、語義上の意味は「無」である。量的否定とは、物事または事件が数量上の規定性に対する否認であ

り、語義上の意味は「～より少ない」ことである。)

② “否定有‘保持’的语义特征,肯定有‘变化’的语义特征。带完成体标记‘了’的肯定句除肯定的语义特征之外,还有变化的语义特征,即表示发生了某种事件或进入了某种状态。”(否定には「保持」という語義上の特徴があり、肯定には「変化」という語義上の特徴がある。完成相標記“了”がつく肯定文には「肯定」という語義上の特徴のほかに、「変化」という語義上の特徴もある。すなわち、ある事件が起きた、またはある状態に入ったことを表す。)

③ “否定与事件‘前’相容,肯定与事件‘后’相容。”(否定は事件“前”と相容れる。肯定が事件“後”と相容れる。)

④ “否定范围有不确定性,肯定范围有确定性。”(否定の範囲には不確定性があり、肯定の範囲には確定性がある。)

⑤ “否定是有标记的,肯定是无标记的。”(否定には標記があり、肯定には標記がない。)  
(pp.45-49.)

## 2.7.劉月華(2001)

動詞の語法特徴について、劉月華は次のように言及した。“动词一般都可以用‘不’来否定,多数动词还可以用‘没’来否定。”(動詞は一般的に“不”を用いて否定できるが、大部分の動詞は“没”を用いて否定してもよい。)(p.151.)

“不”と“没”について、両者とも否定副詞であり、動詞と形容詞の前に用いることができる。両者の意味と用法には相違については、①“在意义上,‘不’否定判断、意愿、事实、性质,而‘没有’否定动作行为发生或状态实现。”(意味上、“不”は判断、意志、事実、性質を否定する。一方、“没”は動作の行為の発生あるいは状態の実現を否定する。)

②“‘没’因为否定动作的发生,所以只用于过去和现在,不用与将来。而‘不’可以用于过去、现在和将来。”(“没”は動作の発生を否定するため、過去と現在の否定だけに用いることができる。“不”は過去、現在および将来に用いることができる。)(p.253.)

## 2.8.宋永圭(2007)

宋永圭(2007)はこれまでの中国語否定辞の研究の視角をおよそ以下のように総括した。“①时间角度的分析。②语气(情态)角度的分析。③量角度的分析。④从搭配动词的‘自主性’角度分析。⑤从搭配动词的过程结构或‘实现’角度分析。可以把上述的几种看法再概括为两点,第一是与‘时间’有关。在无标记情况下‘没(有)’是对‘非未来’完成动作的否定,而‘不’则是中性的否定”;其次是与‘主客观’有关。‘没(有)’是对客观事实的否定,而‘不’是对主观意志的否定。”(①時間という角度から分析すること。②語気(情態)という角度から分析すること。③量という角度から分析すること。④一緒に使う動詞の「自主性」という角度から分析すること。⑤一緒に使う動詞の過程構造(過程结构)または「実現」という角度から分析すること。以上をさらに二つに

要約すると、①時間と関連する角度。標記がない場合、“没”は「非未来」完成動作に対する否定であり、“不”は中性的な否定である。②主観か客観かに関連する角度。“没”は客観事実に対する否定であり、“不”は主観意思に対する否定である。(p.26.)

### 3.問題点

呂叔湘(1980)も含めて従来の否定研究の記述は、主に時間または主観か客観かに関連する視点を否定辞研究と結びつけたことに留まっていた。戴耀晶(2000)は否定と肯定はそれぞれ「保持」または「変化」という語義上の特徴があることに留まり、“不”と“没”の相違について言及しなかった。が、朱繼征(2000)は動相の諸形式を体系的に再整理し、定義づけたところ、“動相”と“静相”が“不”と“没”の使用を制約していると指摘した。つまり、「動相」を否定するには、“没”を用いることができるが、“不”を用いることができない。それに対して、“静相”を否定するには、“不”を用いることができるが、“没”を用いることができない。」という。

まず、“動相”と“静相”の定義と分類を再確認し、諸相の語法、語義、語用についてより比較分析し、上述した結論を再検証する必要がある。

本論では、否定に関する諸先行研究を踏まえて、朱繼征が定義した動相の諸形式を手がかりとして、それらを否定する“不”と“没”の文法的使い分けと意味的相違について検証する。分析方法は「三次元分析法」<sup>2)</sup>、文法(語法 Syntactic)、語意(語意 Semantical)、語用(語用 Pragmatical)という三つの側面を中心とする。

### 4.動相諸形式の否定分析

朱繼征(2000)により、一般的に言われる中国語の「動態動詞」“着”、“了”、“过”を、「動相一次形式」と定義した。その特徴は抽象度(“虚化程度”)が高いとのことである。一方、この三つより抽象度の低いものを「動相二次形式」と定義した<sup>3)</sup>。(p.24.)

#### 4.1.将然相

将然相とは、実際には動作・作用はまだ開始していないが、既実現態勢に入っている過程を表す。言い換えれば、ある動作がまだ始まっていないのに、その始まろうとする気配、前兆、勢いが現れている段階を表す。文法形式は“要～了”、“就要～了”、“快～了”、“快要～了”、“该～了”等である。劉月華(2001)によると、“快(快要)”、“就(就要)”、“将(将要)”はみな時間を表す副詞であり、動作・行為がまもなく起きようとしていることを表す。“快”、“就”は最も近い将来を表し、口語に多く用いられる。“将(将要)”は多く書き言葉に用いられる。文末に“了”がつき、“快(快要)～了”、“就(就要)～了”、“将(将要)～了”構文となる。(p.231.)

(1)a.不忙，不忙，就要离开重庆了，让我多看看这些山！《归去来兮》

(急がない、急がない。まもなく重慶を離れるところです。もうしばらく山々を見せてください。)

b.不忙，不忙，(还)没离开重庆，让我多看看这些山！

\*c.不忙，不忙，不离开重庆，让我多看看这些山！

(2)a.李子荣看见路旁的里数牌：“哈，快到了，还有半哩地。”《二馬》

(李子荣は道端の道標を目にした。「ハッ、もうすぐ着くぞ。あと0.5マイルだ。」)

b.李子荣看见路旁的里数牌：“哈，(还)没到，还有半哩地。”

\*c.李子荣看见路旁的里数牌：“哈，不到，还有半哩地。”

例文(1)は、「重慶を離れる」という予定があるため、時間が差し迫っていることを表す。bは「(まだ)重慶を離れていない」という意味を表すが、cのような否定文は成り立たない。例文(2)は、「道標」を見て、「目的地に近づいていく」ことを表す。bは「(まだ着いていない)」を表すが、cのような否定文が成り立たない。つまり、将然相を否定するには、“没”を用いることができるが、“不”を用いることができない。

#### 4.2.起動相

起動相とは、動作・作用が開始する過程を表す。言い換えれば、動作の静止状態から動的状態への切り替えの段階を表す。文法形式は“～起来”、“开始～”、“～上了”である。

(3)a.猴儿并没拿着鞭子，只由他的尾巴自动的在羊背上一抽，山羊便赶快跑起来。《小坡的生日》(サルが鞭なんかを持たずに、しっぽでちょっとヤギの背中をたたただけで、ヤギが

すぐ走りだしたのさ。)

b.猴儿并没拿着鞭子，只由他的尾巴自动的在羊背上一抽，山羊没跑起来。

\*c.猴儿并没拿着鞭子，只由他的尾巴自动的在羊背上一抽，山羊不跑起来。

d.猴儿并没拿着鞭子，只由他的尾巴自动的在羊背上一抽，山羊跑不起来。

例文(3)の場合は、“跑起来”は「走る」という動作の開始、つまり「走り出す」を表す。bのように“没”を用いると、「走り出さなかった」と意味し、文は成立する。cのように“不”を用いる文は成立しない。dの“跑不起来”は「走り出せない」を意味する結果補語となるので、本論の研究対象外とする。

(4)a.放假的日子，肩上有时候带着个小照像匣，可是至今还没开始照像。《離婚》

(休みの日に、時々小さなカメラを肩に掛けてみるが、未だに撮影を始めていない。)

\*b.放假的日子，肩上有时候带着个小照像匣，可是至今还不开始照像。

例文(4)の「カメラを肩に掛けてみる」というのは撮影する意図があること、つまり、主観的に始めようとしているが、何かの理由があつて、なかなか始まらない。bは成立しない。つまり、起動相を否定するには、“没”を用いることができるが、“不”を用いることができない。

### 4.3.進行相

進行相とは、動作・作用が正に行われている過程を指す。言い換えれば、動作の進行中の段階を表す。文法形式は“正～”、“在～”、“～着”、“～（着）呢”である。

- (5) a. 吕千秋拿着两幅画、一束鲜花。《归去来兮》

（吕千秋は二枚の絵と一つの花束を持っている。）

- b. 吕千秋没拿着两幅画、一束鲜花。

- \*c. 吕千秋不拿着两幅画、一束鲜花。

- (6) a. 天还没黑，刘家父女正在吃晚饭。《骆驼祥子》

（まだ日が暮れていない。劉家の親子は晩御飯を食べている。）

- b. 天还没黑，刘家父女没在吃晚饭。

- \*c. 天还没黑，刘家父女不在吃晚饭。

例文(5) bは「絵と花束を持っていない」を意味するが、文の背景には「絵と花束を持っているはずなのに」というニュアンスがある。cは成立しない。(6) bは「晩御飯を食べていない」を意味するが、文の背景には「普通なら食べるはずなのに」というニュアンスがある。cは成立しない。進行相を否定するには、“没”を用いることができるが、“不”を用いることができない。

### 4.4.完了相

完了相とは、動作・作用が終了する過程を指す。言い換えれば、動作の動的状態から静止状態への切り替えの段階を表す。文法形式は“～完”、“～过1”、“～了”である。

- (7) a. 老人的故事还没说完，他们已闭上了眼，去看梦里的各色的小鱼与香瓜。《四世同堂》

（老人の物語はまだ語り終わらないうちに、彼らはすでに目を閉じて、様々な小魚とメロンを夢見ていた。）

- \*b. 老人的故事还不说完，他们已闭上了眼，去看梦里的各色的小鱼与香瓜。

- (8) a. 吃过饭，大家都要求桐芳唱一只曲子。《四世同堂》

（ご飯を食べ終わると、みんなが桐芳に一曲を歌うように頼んだ。）

- b. (还) 没吃饭，大家都要求桐芳唱一只曲子。

- \*c. (还) 不吃饭，大家都要求桐芳唱一只曲子。

例文(7) cは成立しない。例文(8) bは「まだご飯を食べていないうちに」という意味合いがあるため、aの否定文として成立するが、cは成立しない。完了相を否定するには、“没”を用いることができるが、“不”を用いることができない。

### 4.5.結果相

結果相とは、動作・作用によって結果を生じさせた過程を表す。文法形式は“～好了”、“～



成了”、“～光了”などである。「結果相」を表す形式がほかの“動相”形式と比べると、抽象化（虚化程度）が低い。

- (9) a. 他想打开信看看，又没那个勇气。不看，又怪憋闷得慌，他连晚饭也没吃好。《邻居们-樱花集》（彼は手紙を開けてみたかったが、そこまでの勇気がない。見ないと、なんとなくむしゃくしゃする。晩御飯さえうまく食べられなかった。）
- \*b. 他想打开信看看，又没那个勇气。不看，又怪憋闷得慌，他连晚饭也不吃好。
- c. 他想打开信看看，又没那个勇气。不看，又怪憋闷得慌，他连晚饭也吃不好。

例文(9) aは「一度だけの晩御飯をうまく食べられなかった」を意味する。bは成立しない。Cは文が成立するが、「毎日の晩御飯をうまく食べることができない」という意味になるので、「結果相」ではなく、「可能補語」という範疇になるため、本論の研究対象から除外する。

- (10) a. 买成或没买成这样的一件衣服之后，他会挑着担子走出老远，迷迷糊糊的忘记敲打手中的小鼓！《四世同堂》（このような服を一着買えたり、買えなかったりした後、彼は天枰棒で荷物を担いで遠くまで歩き、ぼんやりして、持っているでんでん太鼓を回すのも忘れてしまう。）
- \*b. 买成或不买成这样的一件衣服之后，他会挑着担子走出老远，迷迷糊糊的忘记敲打手中的小鼓！
- c. 买成或买不成这样的一件衣服之后，他会挑着担子走出老远，迷迷糊糊的忘记敲打手中的小鼓！

例文(10) aの下線部は「交渉成立によって買うことができた」を意味する。bは成立しない。cは文が成立するが、「毎回交渉が決裂して入手できない」という意味になりますので、「結果相」ではなく、「可能補語」という範疇になるため、本論の研究対象から除外する。

結果相を否定するには、“没”を用いることができるが、“不”を用いることができない。

#### 4.6. 残存相

残存相とは、動作によって、ある場所に存在者／物を残存させた過程を指す。文法形式は“～了”、“～着”である。

- (11) a. 河上的大船差不多全没挂着帆，只有几支小划子挂着白帆。《二馬》  
（川にある大きな船はほとんど帆を掛けておらず、わずかに何隻かの小舟だけが白い帆を掛けている。）
- \*b. 河上的大船差不多全不挂着帆，只有几支小划子挂着白帆。
- (12) a. 细软的东西和好搬的小件已装满了车。《牛天賜伝》  
（金目のものや運びやすい小物がすでに車をいっぱいにした。）
- b. 细软的东西和好搬的小件没装满车。
- \*c. 细软的东西和好搬的小件不装满车。

#### d. 细软的东西和好搬的小件装不满车。

例文(11) aの下線部は「帆を掛けてない」状態を表す。bは成立しない。例文(12) aの下線部は「物が車に詰められ、車がいっぱいになった」を表す。bは「物が車に詰められ、車がいっぱいにならなかった」を意味する。Cは文が成立しない。d「毎回または今から物を車に詰めても車がいっぱいになれない」という意味になりますので、「残存相」ではなく、「可能補語」という範疇になるため、本論の研究対象から除外する。

残存相を否定するには、“没”を用いることができるが、“不”を用いることができない。

### 4.7. 持続相

持続相とは、動作・作用が終了した後、動作主の姿勢或いは動作の受け手の静止状態がずっと持続する過程を指す。文法形式は“～了”、“～着”である。

(13)a. 那个姓曹的没戴着眼镜，可是眼神决不充足。《二馬》

(曹という人はメガネをかけているわけでもないのに、目がいきいきとしていないのだ。)

\*b. 那个姓曹的不戴着眼镜，可是眼神决不充足。

持続相を否定するには、“没”を用いることができるが、“不”を用いることができない。

### 4.8. 経験相

経験相とは、過去にかつてある動作が行われた経験があるという意味を表す。文法形式は“～过2”である。

(14) a. 小坡不说话，自然永远到不了吉隆坡，因为只有他认识那个地方。其实他并没到过那里。《小坡的生日》（小坡は黙っていた。当然永遠にクアラルプールに着くことができない。あんなところを知っているのは彼だけだからだ。実際に彼は今までそこへ行ったことがないのだ。)

里。《小坡的生日》（小坡は黙っていた。当然永遠にクアラルプールに着くことができない。あんなところを知っているのは彼だけだからだ。実際に彼は今までそこへ行ったことがないのだ。)

\*b. 小坡不说话，自然永远到不了吉隆坡，因为只有他认识那个地方。其实他并不到过那里。

経験相“～过2”を否定するには、“没”を用いることができるが、“不”を用いることができない。

## 5. 静相について

朱繼征(2000)によると、裸形動詞（ゼロ形式）を用いて静相を表す。①未然的意味を表す。

◇我看这本小说。（私はこの小説を読む：主体の意志や判断を表す）、②恒常の意味を表す。◇

地球围绕着太阳转。（地球は太陽の周りを回る）、③經常の意味を表す。◇我经常看小说。（私はよく小説を読む。）未然的・恒常的・經常的表現は、意味的には“動き”という側面を捉えてい

ないことを共通している。(p.27.)

静相について、裸形動詞のうち、“有”の否定“没”のみ用いることができるほか、ほとんどの裸形動詞が“不”を用いることができるが、“没”を用いることができない。“有”は“動き・作用”ではなく、“所有”または“存在”を表す。“有了”は「ない」という状態から「ある」という状態までの変化を表し、つまり、「あるようになった」を意味する。

李瑛(1992)によると、“存在”または“不存在”は発話者が物事を客観的に考え、主観的な考え方を表す。一方、“有”または“没有”は発話者が物事を客観的に述べ、評論ではなく叙述に重点を置く。したがって、“存在”は“不”でしか否定できず、“有”は“不”で否定できない。

劉月華(2001)によると、“有的动词只能用‘不’否定,如‘是’、‘等于’等关系动词。”(“是”、“等于”などの「関係動詞」の否定には“不”のみ用いることができる。)(p.257.)このような所謂「関係動詞」、例えば“是”、“像”、“属于”、“等于”、“大于”、“小于”も「属性」を表す恒常的なものだと考えられるので、静相の否定にも当てはまると筆者は考える。

一方、「認知動詞」について、劉月華(2001)によると、“认知意义动词表示的实际上也是一种不可变的状态。比如一个人认识了另一个人,一般来说就不会不认识了,‘知道’也是这样。‘忘了’和‘不认识’、‘不知道’是两回事。所以一般不能说‘我们认识过’、‘这件事我知道过’。‘了解’、‘晓得’、‘懂’、‘明白’等属于此类。”(実際に、認知の意味を持つ動詞は一種の不可変状態を表す。例えば、一旦ある人がほかの人と知り合ったら、一般的に「知り合わなくなった」ことはあり得ないであろう。「知る」も同じである。「忘れた」と「知り合わない」、「知らない」とは違うことである。そのため、一般的に「我々は知り合ったことがある」、「この件は私が知ったことがある」とは言わない。“了解”、“晓得”、“懂”、“明白”などはこの類に属する。)(p.402.)つまり、「認知動詞」の後ろに“过”を用いることができない。

実際に、このような「認知動詞」に「“動相”一次形式」“着”、“了”、“过”のうち、“了”のみ用いられる。“了”を用いることによって、「認知しなかった」という状態から、いったん「認知」をすると、その「認知」という状態は永久的なものである。すなわち、“了”によって、状態の変化を表せるが、動作・作用が生じたわけではない。このような「認知動詞」には二種類に区分できる。

① “懂”、“明白”などの「認知動詞」の否定には“不”と“没”を両方用いることができる。“不懂”、“不明白”はともに「分からない」、または「分かっていない」という事実を述べている。これは静相に当てはまる。一方、“还没懂”、“还没明白”はともに「まだ分かっていない」を意味するが、認知までの過程のなかであり、まだ認知の段階には至っていないことを表す。これが動相に当てはまる。

② “不认识”(知らない、認識していない) → “认识”(知っている、認識している)、“不知道”(知らない) → “知道<sup>4)</sup>”(知っている)、“不了解”(詳しく知らない) → “了解”(詳しく知っている)、“不晓得(知らない)” → “晓得(知っている)”のように、否定的な事実から瞬間

的に肯定の側面に変わり、その後肯定の状態が持続する。否定と肯定の間に動きまたは変化の段階がないため、静相の定義に当てはなる。つまり、“认识”、“知道”、“了解”、“晓得”などの「認知動詞」の否定には“不”を用いることができるが、“没”を用いることはできない。

## 6.まとめ

以上のように、本論は動相の諸形式を体系的に再検証した結果、次のような結論を得ることができた。

朱繼征(2000)が指摘した「“動相”と“静相”が“不”と“没”の使用を制約している」ことが再確認できた。

ただし、「“動相”を否定するには、“没”を用いることができるが、“不”を用いることができない。それに対して、“静相”を否定するには、“不”を用いることができるが、“没”を用いることができない。」という朱繼征(2000)の説に対して、敢えて以下のようにまとめる。

「“動相”のうち、肯定文には“着”、“了”、“过”などの一次形式の場合、否定文には、“没”を用いることができるが、“不”を用いることができない。それに対して、特例の“有”を除く“静相”を否定するには、“不”を用いることができるが、“没”を用いることができない」と結びたい。

### 例文出典

《老舍全集》,人民文学出版社(1999年2月)

### <注>

- 1) 動相とは、いわゆる「aspect」、日本語では「アスペクト」と訳されたこともあるし、また、「相」或いは「態」と訳されたこともある。本論中の「動相」は朱繼征(2001)が呂叔湘(1942)に従い再定義したものである。
- 2) 范晓(2004)が「三つの側面」理論を「三次元分析法」と定義し、語法構造は構文構造、語義構造と語用構造に区分できる。
- 3) 本論中の動詞の諸相に関する定義は、すべて朱繼征(2000)によるものである。
- 4) “知道”については、呂叔湘(1980)によると、“对于事实有了解。可带‘了’、可重叠。可带名词、动词或小句作宾语。只用‘不’否定。”(事実に対してある程度把握している。“了”を用いることができ、重ねることができる。名詞、動詞、文を目的語として用いることができる。否定には“不”しか使えない。) (p.603.)

### <参考文献>

相原茂 1992.「汉语比较句的两种否定形式 - “不比”型和“没有”型」,『语言教学与研究』第3期:73-87頁。

白 荃 2000.「“不”和“没(有)”教学和研究上的误区 - 关于“不”、“没(有)”的意义和用法的探讨」,

- 『语言教学与研究』第3期：21-25頁。
- 陈昌来 2005.『现代汉语三维语法论』，学林出版社。
- 戴耀晶 2000.「试论现代汉语的否定范畴」，『语言教学与研究』第3期：45-49頁。
- 范晓 1996.『三个平面的语法观』，北京语言文化大学出版社。
- 范晓 2004.「三维语法阐释」，『汉语学习』06期。
- 金立鑫 2005.「“没”和“了”共现的句法条件」，『汉语学习』第2月1期：25-27頁。
- 李铁根 2003.「“不”、“没(有)”的用法以其所受的时间制约」，『汉语学习』第4月2期：1-7頁。
- 劉月華等 2007.『实用現代漢語語法』，商務印書館。
- 李瑛 1992.「“不”的否定意义」，『语言教学与研究』第2期：61-70頁。
- 吕叔湘 1980.『现代汉语八百词』，商务印书馆。
- 吕叔湘 1985.「疑问、否定、肯定」，『中国语文』第四期。
- 聂仁发 2001.「否定词“不”与“没有”的语意特征及其时间意义」，『汉语学习』第2月1期：21-27頁。
- 彭利贞 2007.『现代汉语情态研究』，中国社会科学出版社。
- 齐沪扬 2006.『对外漢語教學語法』，復旦大学出版社。
- 石毓智 1992.『肯定和否定的对称和不对称』，北京语言文化大学出版社。
- 宋永圭 2007.『现代汉语情态动词否定研究』，中国社会科学出版社。
- 王欣 2007.「“不”和“没(有)”的认知语意分析」，『语言教学与研究』第4期：26-33頁。
- 扬惠芬 1998.「表比较的“没有”句句型探析」，『语言教学与研究』第1期：121-127頁。
- 朱繼征 2000.『中国語の文法形式』，新潟大学経済学部。
- 朱繼征 2005.「中国語教育における否定辞の教え方について」，『大学教育研究年報』（新潟大学大学教育開発研究センター）第10号：9-17頁。

主指導教員（朱繼征教授）、副指導教員（茂木信之教授・舩城俊太郎教授）